

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年3月2日

No.16

12春闘第3回賃上げ交渉報告！

中央本部は、本日13時30分から「第3回賃上げ交渉」を行い、冒頭に前回交渉で表れた「経費削減を徹底し黒字確保を目指していく」という会社姿勢に強く抗議し、満額回答に向けた要求の根拠について明らかにしました。

中央本部の今春闘に対する要求の根拠は7点！

- ①原油価格の沸騰や電気ガス料金等の値上げで生活向上分としてベースアップは重要であること。
- ②健康保険等の掛け金の比率の上昇や若手組合員の結婚・育児・教育等費用がかかり現状給与では一層の生活苦に追い込まれる状況にある。生活改善を図るために組合員・家族の期待に応えること。
- ③自然災害や輸送障害で職場は異常時が当たり前の状態の中で奮闘している組合員に対して賃上げで報いること。
- ④職場では時間外労働が頻発している。しかし、B単価はJR各社の中において最低の水準にあり改善すること。
- ⑤嘱託社員と若手社員の退職が増加傾向にあり、運転・駅職場は慢性的な欠員状態である。また各系統で技術継承が困難な状況である。優秀な人材を確保するために新規採用の拡大を行うべきである。
- ⑥回答指定日にした3月16日はJR貨物労組結成25年を迎える。「安楽死論」から「社会に役立つJR貨物」にまで発展させたのは貨物労組である。
- ⑦計画を達成できない無責任な経営体質を質し、賃上げ要求に対して会社は満額で応え、組合員の苦勞に報いること。

これを受けて会社は現段階の考え方について示しました。

- ①デフレ経済下で経済状況は良くない中での賃上げ要求であり、ベアの重みを受け止め検討する。
- ②異常時が増加し、組合員には苦勞をかけている中で安全最優先に努めていることは認識している。
- ③B単価についてはJR最低水準であり、超勤及び夜勤手当等総合的に見て検討していく。
- ④要員需給については、H24年・25年度は会社として充足すると見ている。
- ⑤会社が発足して25年、労使の力で社会的使命を果たしてきたことは認識している。
- ⑥賃上げ組の要求に対して次回交渉で会社の考え方を示す。

会社の考え方に対して中央本部は5点について指摘し、ベア満額回答の実施を迫りました。

- ①ベアの重みを理解しているなら、ベアゼロ回答は許されない！
- ②コスト削減による収支の帳尻合わせは認めない。収入を上げる努力をするべきである。
- ③慢性的な欠員及び安全作業と安定輸送を実現するためには、将来に向け要員を確保すべきである。
- ④営業スタッフの効率化が検討されているようだが、まずは役員を減らすべきだ。営業社員は日夜業務に奮闘している。収入拡大に逆行する要員削減は絶対に許さない！
- ⑤来年度5億円の黒字達成を実現するのであれば、支払い能力はあると考えている。異常時を理由とした抑制は認めない。

最後に中央本部は、①会社は我々の要求に対して誠意ある対応をするべきである。②会社が示した検討している中身について次回交渉で具体的内容を示すこと。③我々が危惧する要員需給に対して24年・25年度の各系統別の要員需給状況を示すこと。④我々の要求に対して見える形で示すよう社内で検討し、次回交渉で誠意ある回答を示すことを通告し交渉を終えました。

組合員のみなさん！会社はベアの重みを理解して検討をしていくことを明らかにしました。これから闘争ゾーンに入ります。交渉の中身を反故にさせないためにベア獲得に向けて組合員を総結集し闘いをつくり出そうではありませんか。中央本部も最先頭で奮闘していく事を申し上げ第3回交渉報告とします。

次回、第4回交渉は3月8日（木）です。